

食品の選択において 消費者はどんなことを 考えているか

～特に福島原子力発電所事故以降～

公益社団法人日本消費生活アドバイザー・コ
ンサルタント・相談員協会

常任顧問 辰巳菊子(2017.6.2)

直接聞いた消費者の声(1)

- 福島の魚？スーパーなどでは見かけないよね。「自分は食べるかも知れないが、孫、子には食べさせたくない」という人がいるが、私は売っていても、絶対に買わない。何が海に出ているのかわからないもの
- 毎日同じものを食べるわけじゃないので、気にしない
- 茨城や宮城、青森などの魚はたくさんお店に出ている、海はつながっているのに。店頭になくイコール汚染など問題があるということなのでは
- (試験操業の魚が市場に出ていることを知らないし、店頭でも見かけないので)福島産海産物を買いますかと聞くと、むしろ、店頭にあるのと聞き返される
- 外食ではどこの魚かわからず食べているのにねえ・・・

直接聞いた消費者の声(2)

- 旬の物など、どうしてもそれしかない時は買うかもしれないが、現状はいくらでも他の選択肢があるので優先順位からいうと最後になる、つまり、買わないという選択になる
- 一部の人を除き、多くの人には買わないとは明確には言わない
- 産地表示はよく確かめて購入しているという人が多いが中には全く見ないという人もいる
- ただ、魚の産地表示の場合は水域というより水揚げ港名や都道府県名となっているので、表示の重みもあまり無い。生産水域名を記載してほしいという声がある

ねじり鉢巻の魚屋さんの声

- 「店頭で福島産がないですね」と質問すると、別に意識しているわけではない。市場に出ている時は仕入れている。ヒラメやカレイを入荷したことがあるよ
- 閉店前でなく、開店時に来なければ、福島産もあるかもしれないよ
- お客様の福島産への反応はいろいろ、それでも夕方までには殆ど売り切れるよ

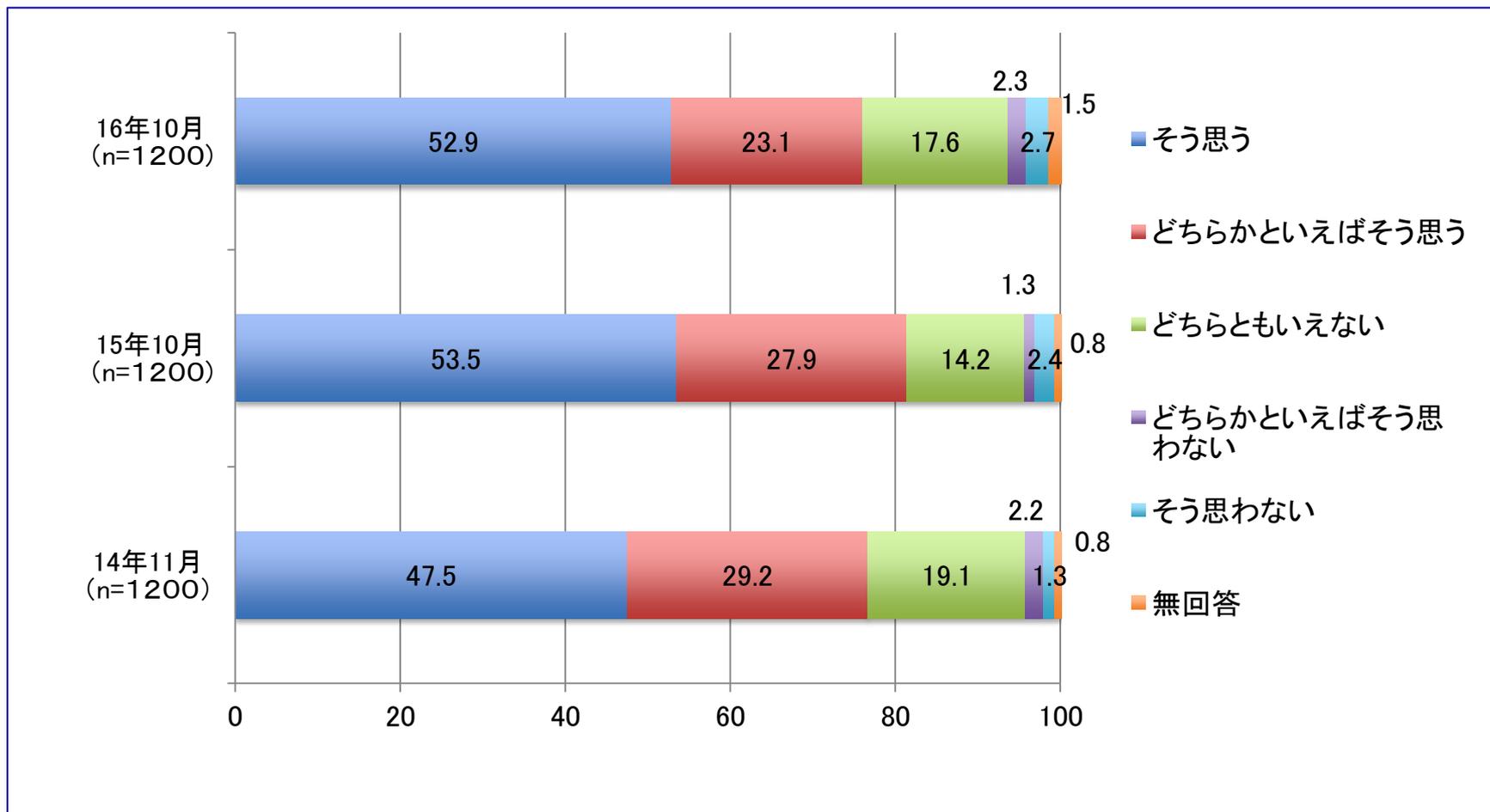
その日、店頭で、残っていた魚
(岩手産、青森産)



会話から得た福島産海産物の購入を躊躇する訳

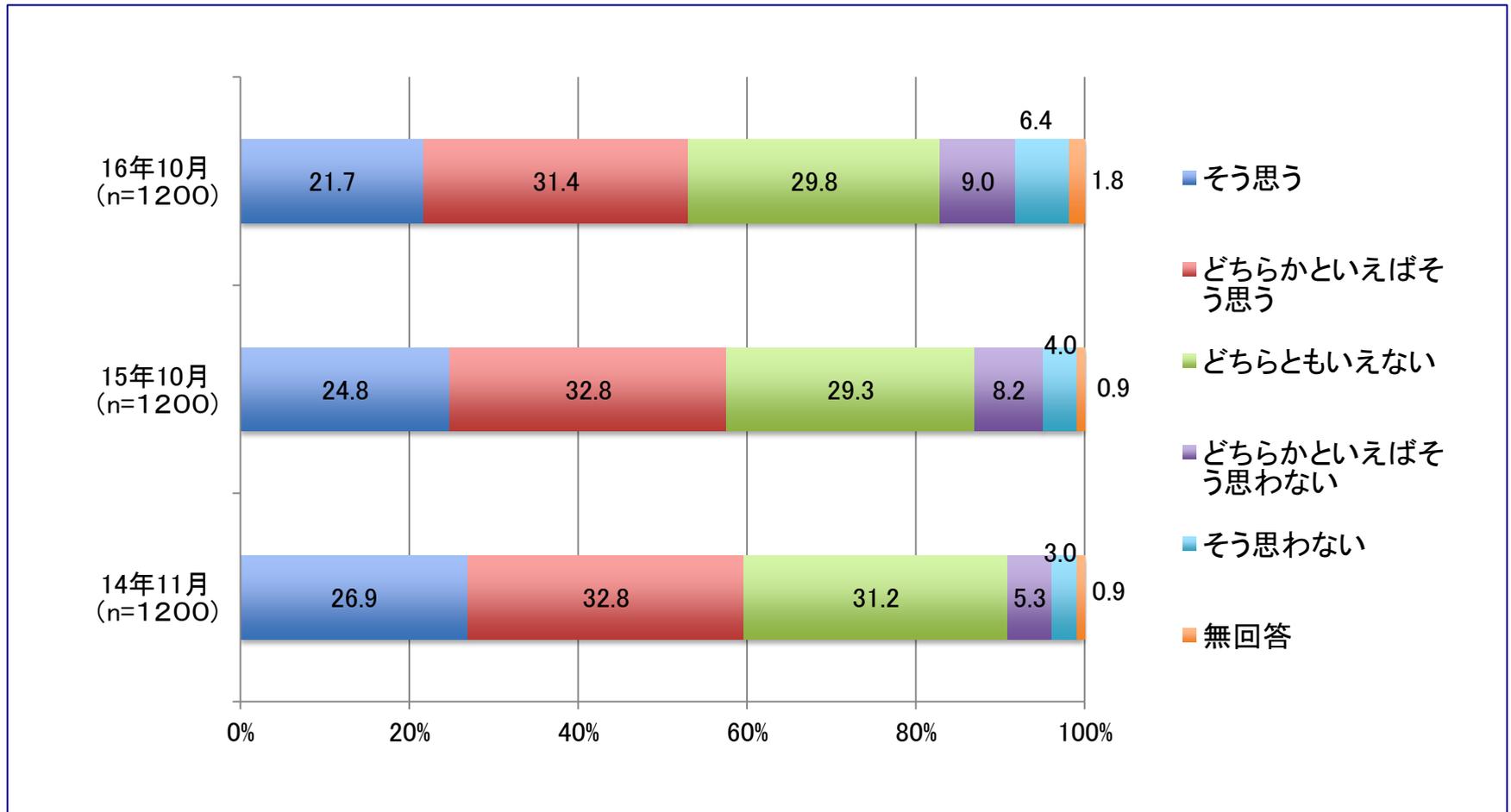
- 福島F1の処理水を貯めているタンクは、タンクがあることのみ多くの人がニュースなどで知っている
- タンクには流せない汚染水を貯めているのだと理解している
- タンクでストックをしても、地下水など漏れ出た汚染水が海に滲み出ているに違いないと思っている
- トリチウム水という単語そのものは知らない
- トリチウムは水と結合して分離しないらしいと話すと、何かを介し水として取り込んだ時、人体内でトリチウムが体内水として残留するのではないかと思う
- そう考えると、長期的に体内被曝の心配があり、子供や孫には絶対に食べさせたくないとなるのではないか

子供たちや将来の世代への放射能や放射線の影響はゼロにしてほしい



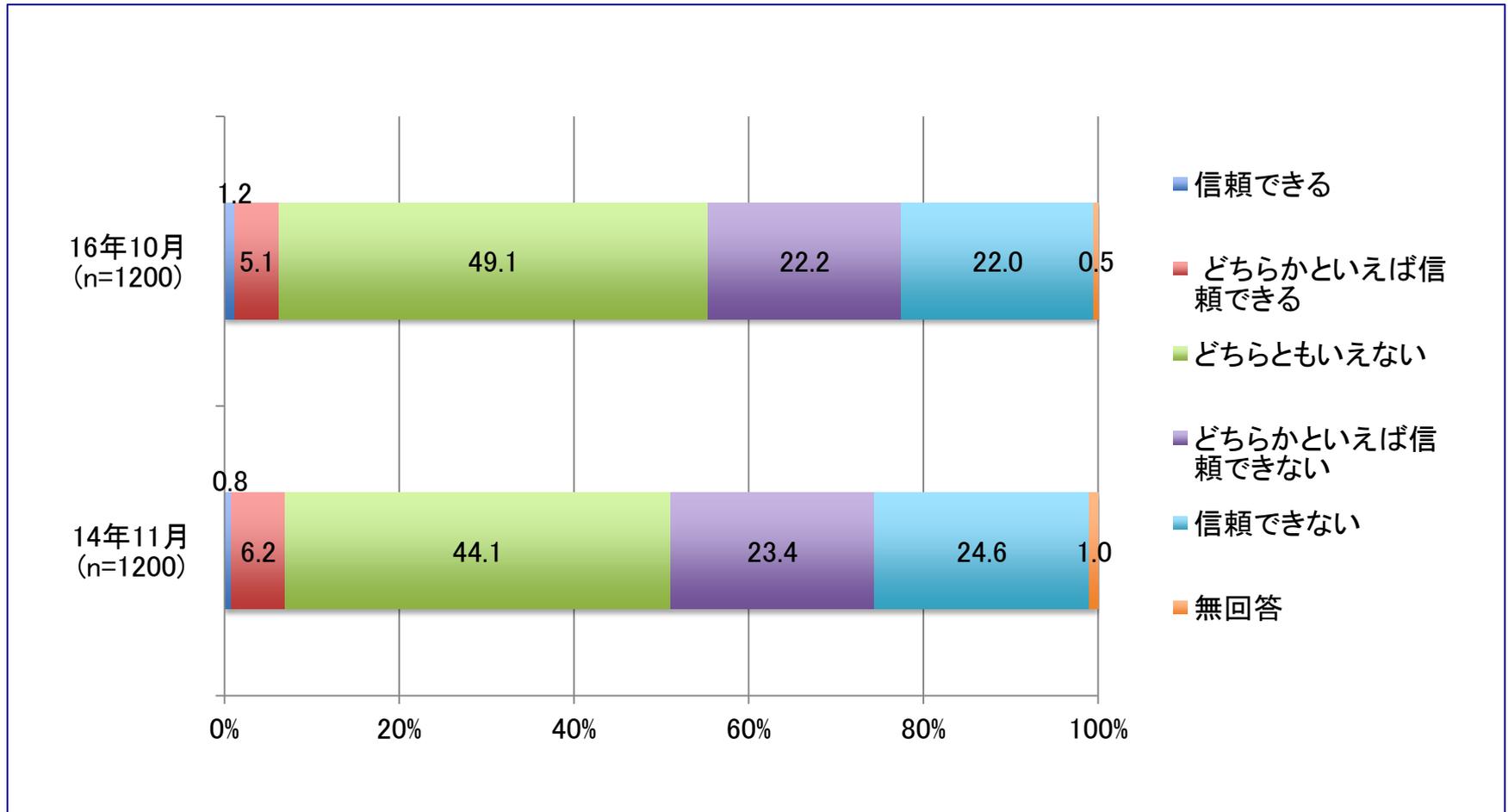
<原子力文化振興財団調査から>

自分のまわりの土壌や食品・水の放射能汚染のことが心配だ



<原子力文化振興財団調査から>

原子力に関して、あなたは「原子力の事業者」を信頼できると思いますか(○は1つだけ)



<原子力文化振興財団調査から>

選択の判断の条件は？
そのための説明は？
特に食品の場合は？



THE HEAD SAYS YES.
THE HEART SAYS DEFINITELY, YES.

買いものはだれのため

- 例え、過剰防衛といわれても、消費者は自分の身は自分で守らねばならない(食中毒、アナフィラキシーショック、アレルギーetc.)
- しかし、誰から教わるのか・・・
- 事業者は自信を持てる商品を提供し、それを説明し購入者に共感してもらう努力が必要
- しかし、安心に関する説明は⇒安全であること≠安心出来ること
- 買いものは事業者への1票の投票(Buycott)
- 購入しないという選択も消費者にとって重要な行動(Boycott)

食品の購買意識に関する世論調査

(東京都:平成28年2月発表)

有効回答数:1,653標本)

生鮮食料品を購入するときに、
安全性についてどの程度意識していますか

